

病院・診療所からのワンポイントアドバイス

症状が現れにくい動脈硬化性疾患。 おかしいと思ったら専門医の受診を



社会医療法人 医翔会
札幌白石記念病院
副理事長
道井洋吏

人生100年時代、高齢化に伴い心不全の患者さんはますます増えています。心不全とは病名ではなく、心臓のポンプ機能が破綻し、体に十分に血液が送り出せなくなることで様々な症状が現れる状態を指します。その分類や原因は様々挙げられ、それに応じて現れる症状も異なります。冠状動脈の病気としては、狭心症や心筋梗塞が代表的です。狭心症は心臓筋肉への血流不足で発症し、心筋梗塞は心臓筋肉への血流が途絶することで心臓が壊死する病気です。これらに共通するのは

動脈硬化です。動脈硬化はこの他、脳であれば脳梗塞、腎臓であれば腎梗塞、下肢であれば閉塞性動脈硬化症の要因になります。血管の75%以上が閉塞するとそれぞれの臓器での症状が現れやすく、逆にいうとそこまで血管が狭窄しなければ症状はなかなか現れません。心筋梗塞の7割程の患者さんは発症するまで健康であり、心電図にも異常は現れないことがほとんどです。ある程度の年齢を重ねれば、症状がなくても重大な病気が潜んでいることが多いものです。こうした病気は一般の健康診断では見つからないことが多いため、健康寿命を延ばすためにも、おかしいと思ったら迷わず専門医を受診することをお勧めします。